

# 災害への備え

## 地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、苅田町をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。



## 防災について家族で話し合おう

災害時に最も頼りになるのは家族です。家族そろって防災について話し合しましょう。

### ① 家族一人ひとりの役割分担

火の始末の係、お年寄りや乳幼児などの安全確保の係、非常持ち出し品の係など、家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。

### ② 家族間の連絡方法

災害はいつ起こるかわかりません。災害用の居場所を伝える方法を考えましょう(災害用伝言ダイヤルの活用など)。

### ③ 避難所の確認

自宅、学校、勤務先から避難所への最も安全な経路と、家族全員が落ち合える場所を決めましょう。

### ④ 初期消火の方法を覚えましょう

消火器の置き場所や使い方を確認しましょう。

### ⑤ 家の内外の安全チェック

家屋の耐震化、家具などの転倒防止策、家の中や外の整理整頓をしましょう。

### ⑥ 非常持ち出し品・備蓄品のチェック

非常持ち出し品・備蓄品の食料や飲料水は賞味(消費)期限があります。定期的に確認しましょう。

### ⑦ 家庭内備蓄品は「ローリングストック」で

普段の食事に利用する食材を多めに常備して、製造日の古いものから消費し、消費した分を新しく買い足し、いざというときのために備える方法です。



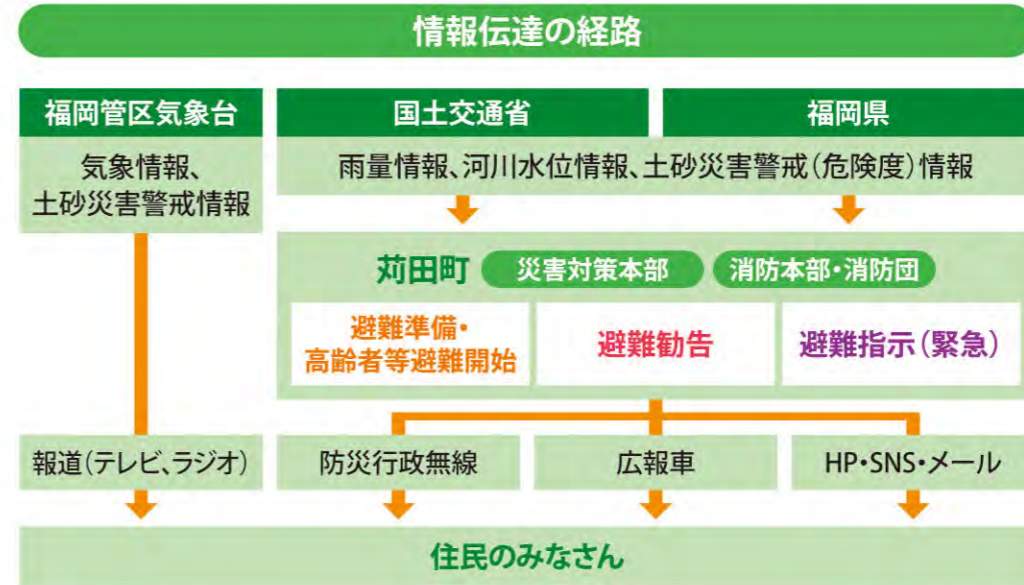
非常持ち出し品の例	すぐに持ち出しするもの
<input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん)	<input type="checkbox"/> ライター
<input type="checkbox"/> 飲料水(500mlペットボトル程度)	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー、ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> 食料 アルファ米、チョコレート、ビスケット、缶切り不要の缶詰など	<input type="checkbox"/> 洗面用具
<input type="checkbox"/> 懐中電灯・予備の電池・携帯用充電器 年に一度は電池のチェック	<input type="checkbox"/> スポーツタオル
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 筆記用具
<input type="checkbox"/> 救急医薬品(消毒や傷の手当てができるよう)	<input type="checkbox"/> 貴重品 健康保険証、運転免許証、預貯金通帳、現金(小銭は多目に)、印鑑など
<input type="checkbox"/> 常備薬	<input type="checkbox"/> 手手
<input type="checkbox"/> ろうそく	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋)
	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ

備蓄品の例	すぐに取り出せるように(1週間分を用意)
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安に)	<input type="checkbox"/> カセットコンロ(予備のガスボンベ)
<input type="checkbox"/> 毛布または寝袋	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ(携帯トイレ)
<input type="checkbox"/> ブルーシート(敷物、雨よけ用)	<input type="checkbox"/> ゴミ袋
<input type="checkbox"/> 食料 アルファ米、レトルト食品、乾パン、缶切り不要の缶詰など	<input type="checkbox"/> 布製ガムテープ
<input type="checkbox"/> 菓子類	<input type="checkbox"/> キッチン用ラップ
<input type="checkbox"/> 割り箸	※ 必要に応じて、紙おむつ、粉ミルク、生理用品など
<input type="checkbox"/> 衣類(下着、セーターなど)	
<input type="checkbox"/> 新聞紙	
<input type="checkbox"/> なべ	

※風呂の残り湯は捨てずに溜めておきましょう。水洗トイレの雑用水や消火用水など、飲用以外の生活用水として有効に活用できます。

## 苅田町の防災体制と避難情報

苅田町では、災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには『災害対策本部』を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発令します。



## 防災無線放送内容の電話案内サービス

防災無線にて放送する災害情報や苅田町からのお知らせ内容の電話案内を行います。暴風や大雨などで放送内容が聞き取りにくかったときや、聞き逃したとき等にご利用ください。

専用電話番号  
**093-588-1086**

※通話料は、利用される方の負担となりますのでご了承ください。また、Jアラートによる自動放送時は利用できません。

## 警戒レベルと避難行動

令和元年6月より、避難情報等に加えて、住民が情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを提供し、とるべき行動とその対応が明確化されました。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。

警戒レベル	みなさんがとるべき行動	避難情報	防災気象情報等
警戒レベル 5	既に <b>災害が発生</b> している状況です。 命を守るための <b>最善の行動</b> をとりましょう。	災害発生情報 <sup>※1</sup>	警戒レベル5 相当情報 ●はん濫発生情報 ●大雨特別警報 等
警戒レベル 4 全員避難	<b>速やかに避難先へ避難</b> しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	町が発令 避難指示(緊急) <sup>※2</sup> 避難勧告	警戒レベル4 相当情報 ●はん濫危険情報 ●土砂災害警戒情報 等
警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその <b>支援者</b> は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始	警戒レベル3 相当情報 ●はん濫警戒情報 ●洪水警報 等
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確認</b> しましょう。	気象庁が発表 洪水注意報 大雨注意報 等	▲これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報	

■各種の情報は、警戒レベル1~5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。  
(※1)災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令。(※2)地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令。

# 風水害への備え

## 家屋の被害を抑える

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行きましょう。

**外壁**

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

**屋根・雨どい**

- 不安定なアンテナはありませんか
- トタンがめくれていますか
- 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
- 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていますか

**ベランダ**

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

**ブロック**

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

**板塀**

- 板塀に腐りや浮きはありますか
- 板塀に支柱はありますか

**排水溝**

- 側溝や雨水ますにゴミや土砂はありませんか

**窓**

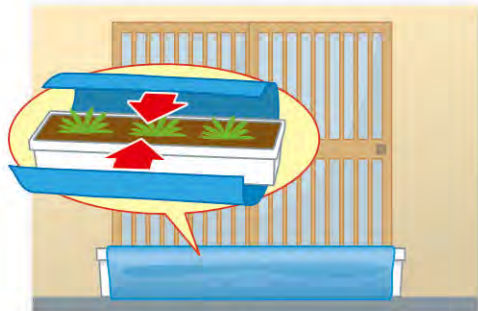
- 窓枠のがたつきはありませんか
- 雨戸のがたつきはありませんか

**その他**

- ガスボンベ(プロパンガス等)は固定されていますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

## 家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(ない場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①  
プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②  
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせ、出入口に設置し、浸水を防ぎます。

**「簡易水のう」の作り方**

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

## 道路の側溝や雨水ますの点検・清掃

風や雨が強まってからの作業は、転倒や水路への転落などのおそれがあり大変危険です。事前に点検や清掃を行きましょう。また、側溝や雨水ますの集水口に泥や落ち葉、ゴミなどが詰まっていないか点検しましょう。



## ●雨の強さ・降り方と災害の危険性

※気象庁資料参照

雨の強さ(予報用語)	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ	人への影響と屋外の様子	災害の危険性
やや強い雨	10以上 20未満	●ザーザーと降る。	●地面からはね返りで足元がぬれる。	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。
強い雨	20以上 30未満	●どしゃ降り。	●傘をさしてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のかけ崩れのおそれがある。
激しい雨	30以上 50未満	●バケツをひっくり返したように降る。	●道路が川のようになる。	●山崩れ、かけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
非常に激しい雨	50以上 80未満	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。
猛烈な雨	80以上	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。		●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

## ●風の強さと吹き方

※気象庁資料参照

風の強さ(予報用語)	平均風速(m/s)	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物
やや強い風	10以上 15未満	●風に向かって歩きにくくなる。 ●傘がさせない。	●樹木全体が揺れ始める。 ●電線が揺れ始める。	●樋(とい)が揺れ始める。
強い風	15以上 20未満	●風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 ●高所での作業はきわめて危険。	●電線が鳴り始める。 ●看板やトタン板が外れ始める。	●屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 ●雨戸やシャッターが揺れる。
非常に強い風	20以上 25未満	●何かにつかまっていなくて立ってられない。 ●飛来物によって負傷するおそれがある。	●細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 ●看板が落下・飛散する。 ●道路標識が傾く。	●屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 ●固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。
	25以上 30未満			●固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 ●養生の不十分な仮設足場が崩落する。
猛烈な風	30以上 35未満	●屋外での行動は極めて危険。	●多くの樹木が倒れる。 ●電柱や街灯で倒れるものがある。 ●ブロック壁で倒壊するものがある。	●外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。
	35以上 40未満			
	40以上			

※平均風速は10分間の平均です。風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

# 風水害への備え

## 風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁などからの警報など気象情報や、苅田町からの避難情報に注意しましょう。また、不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

### ●風が強いとき



- 室内では**
  - 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
  - 外側から板でふさいだり、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。
- 屋外では**
  - 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。
  - 平均風速に比べて、1.5～2倍の瞬間風速に注意しましょう。
- 海辺では**
  - 転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。
  - 強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

### ●大雨のとき…集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。



- 室内では**
  - 豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
  - 非常持ち出し品をまとめておきましょう。
- 車の運転は**
  - 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
  - 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。
- 川辺・水路付近では**
  - 急な増水や土砂流の危険もあるので、速やかに離れましょう。
  - 水深が浅くても流れに足をとられたり、水路が見えなくなっているときもありますので注意しましょう。

## 内水はん濫と外水はん濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こるはん濫（内水はん濫）と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生するはん濫（外水はん濫）があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流ではん濫が発生することがあります。

## 大雨・洪水に関する注意報・警報について

福岡管区気象台からは、次のような場合に注意報・警報が発表されます。

大雨注意報	洪水注意報	大雨警報、洪水警報	大雨特別警報
大雨による災害（土砂災害や低地の浸水など）が発生するおそれがあるとき。	大雨、長雨などにより河川が増水し災害が発生するおそれがあるとき。	それぞれ重大な災害が発生するおそれがあるとき。	警報の発表基準をはるかに超える災害が予想され、危険性が著しく高まっているとき。

このほか、数年に一度程度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。土砂災害や浸水・洪水災害の発生につながる事態が生じていますので、警報の危険度分布や、避難情報を確認してください。

大雨などのときには、テレビ・ラジオなどにより最新の注意報、警報の発表状況を確認するようにしましょう。その他、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ（<http://www.jma.go.jp/>）でも確認できます。  
※苅田町に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

## 河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。苅田町では、小波瀬川の水位観測所で定められた基準水位に達するなどの状況から判断し、発令します。



## 土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、福岡県と福岡管区気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報が発表されたら、避難情報を発令しますので、土砂災害に厳重に警戒し、安全な場所へ避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、早めの避難行動をとってください。



▼土砂災害の危険度情報は、福岡県がインターネットで公開している「福岡県土砂災害危険度情報」で確認することができます。

福岡県土砂災害危険度情報 検索




<http://www.sabo.pref.fukuoka.lg.jp/dosya/index.html>

# 風水害への備え

## 土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れ・土石流・地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないかたしかめることが重要です。もし、下に示すような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、町役場や消防にご連絡ください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害のおそれがあるか、確認しておきましょう。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)	土石流	地すべり
		
地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。	長雨や集中豪雨などによって、山や川の石や土砂が、大量の水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。	大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

! こんなときは要注意		土砂災害の前ぶれ(前兆現象)		
五感	移動主体	がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>がけに割れ目が見える</li> <li>がけから小石がパラパラと落ちる</li> <li>斜面がはらみだす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>溪流付近の斜面が崩れだす</li> <li>落石が生じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面にひび割れができる</li> <li>地面の一部が落ち込んだり盛り上がったたりする</li> </ul>
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面流が生じる</li> <li>がけから水が噴き出す</li> <li>湧水が濁りだす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の水が異常に濁る</li> <li>雨が降り続けているのに川の水位が下がる</li> <li>土砂の流出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沢や井戸の水が濁る</li> <li>斜面から水が噴き出す</li> <li>池や沼の水かさ急減する</li> </ul>
	樹木	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木が傾く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>濁水に流木が混じりだす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木が傾く</li> </ul>
	その他	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>溪流内の火花</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家や擁壁に亀裂が入る</li> <li>擁壁や電柱が傾く</li> </ul>
音		<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木の根が切れる音がある</li> <li>樹木の揺れる音がある</li> <li>地鳴りがする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地鳴りがする</li> <li>山鳴りがする</li> <li>転石のぶつかり合う音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹木の根が切れる音がある</li> </ul>
におい		—	<ul style="list-style-type: none"> <li>腐った土のにおいがする</li> </ul>	—

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

## 豪雨時(異常時)の屋内避難

お年寄りや障がいのある方など避難に時間を要する人は、移動時間を考えて早めに避難することが重要です。しかし、どうしても避難場所等への移動が困難な場合は、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難しましょう。それも難しい場合は、家の中でより安全な場所(2階以上やがけから離れた部屋)に避難してください。



## 避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。



**状況により、すばやく避難しましょう!**  
町から情報が来る前でも、雨の状況などから判断し、避難しましょう。



**外出中の家族には連絡メモを残そう!**  
「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。



**住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!**  
特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。



**集団で助け合おう!**  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



**車での避難は控えて!**  
車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。



**安全なルートで!**  
川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



**持ち出し品は最小限に!**  
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



**避難所では係の人の指示に従いましょう!**  
避難所に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。

### 洪水時の避難



歩ける深さは約50cm。流れが速かったり水深が腰まであるようなら無理は禁物です。早めに高所に避難しましょう。



水面下はどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。



裸足、長靴は禁物です。長靴は脱げやすく危険なので、紐で締められる運動靴がよいでしょう。



避難するときは2人以上で。はぐれないようお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないように!



お年寄りや身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋等を使い、しっかり安全を確認して避難させましょう。

## 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高層階や自宅の2階以上といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。



**危険な避難**



**避難場所への早めの避難(水平避難)**

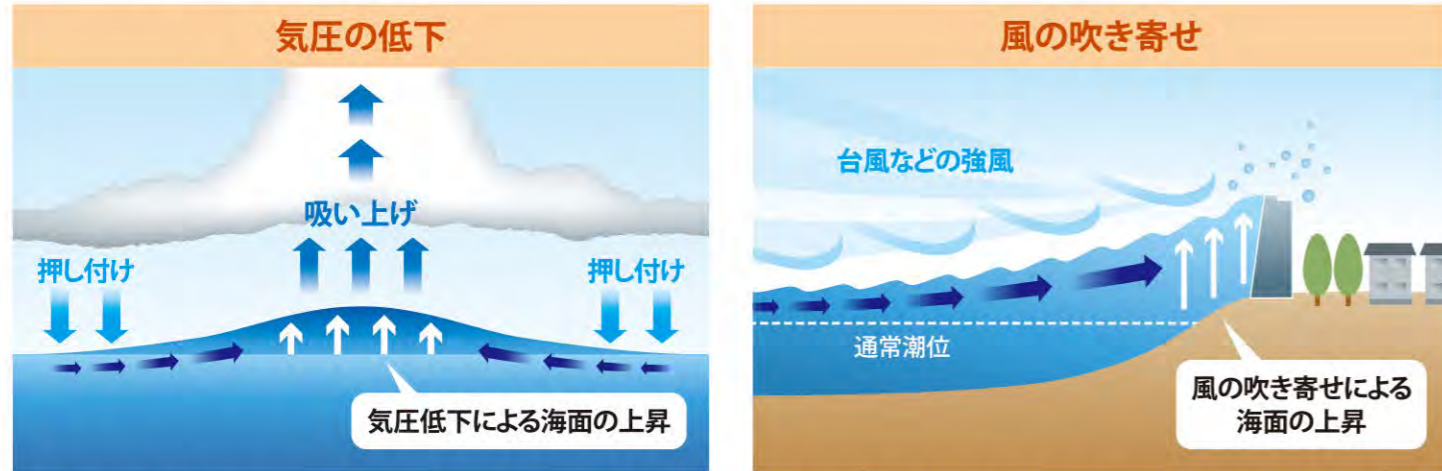


**高所への避難(垂直避難)**

# 高潮への備え

## 高潮発生のしくみ

高潮とは台風や発達した低気圧によって、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。高潮発生の主な要因としては、以下の2つがあります。



台風や低気圧の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気が海面を押し寄せ、また、中心付近の大気が海面を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。

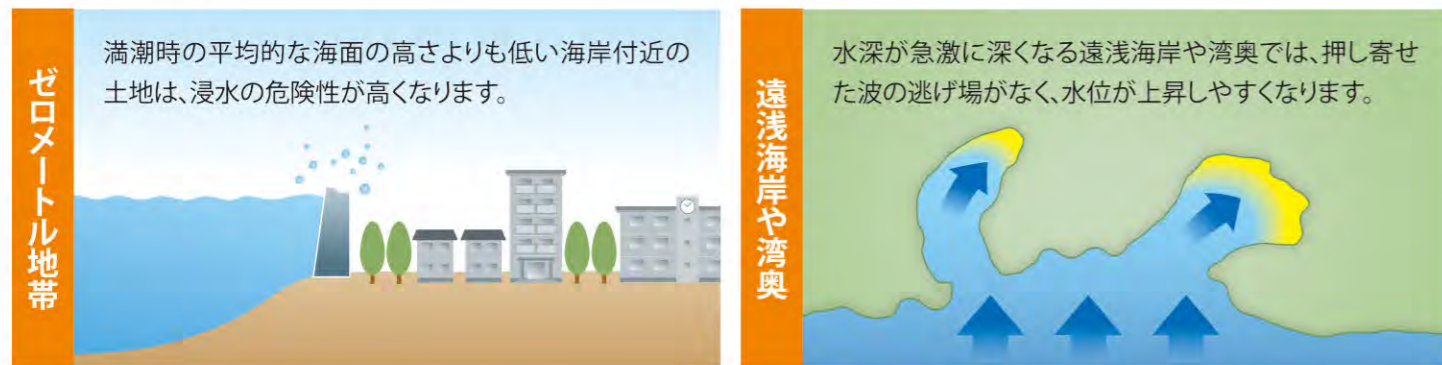
台風などの強風が沖から海岸に向かって長時間にわたり吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面が異常に上昇します。

### 夏から秋にかけて潮位が高くなり、浸水や冠水が発生しやすくなります！

九州では、海水の熱膨張などの影響により、6月中旬～11月中旬の潮位が高くなります。特に大潮の期間中の満潮時に、台風や低気圧の接近による高潮被害が発生するおそれがありますので、注意が必要です。

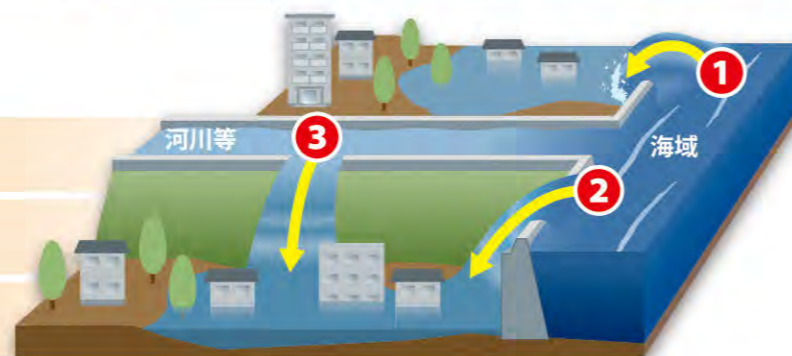
## 高潮の被害を受けやすい場所

高潮による海面上昇は、海底地形や海岸形状によって大きく異なります。次のような場所では高潮災害に対する警戒が特に必要です。



## 高潮による主な浸水原因

- ① 高波による堤防・護岸からの越波
- ② 高潮による堤防・護岸からの越流
- ③ 洪水による河川堤防からの越流



## 各浸水想定区域の想定条件について

各浸水想定区域の計算条件は、以下に示すとおりです。なお、ある一定の条件により解析した結果のため、各種災害の想定区域に含まれていない地域でも、災害の発生状況や地形の利用状況などにより浸水するおそれがありますので、注意してください。

### 内水・土砂災害マップ 内水浸水想定区域について

内水浸水想定区域は、想定される最大の降雨が町内全域に一律に降ったと仮定して算出したもので、地形的に浸水しやすい場所を示しています。また、区画整理及び港湾整備事業などの地形改変により、この浸水想定区域と異なる場合があります。

\*内水浸水想定区域のほか、福岡県が指定した土砂災害(特別)警戒区域をあわせて表示しています。

想定降雨量 153mm/h 【参考】既往最大降雨(平成30年7月豪雨) ▶ 苅田町:48mm/h ▶ 朝倉市:139mm/h

実施機関:苅田町上下水道課(平成31年3月)

### 洪水マップ 洪水浸水想定区域について

このマップには、長峡川・小波瀬川および今川の各浸水想定区域を重ね合わせ、深い方の浸水深を採用した浸水想定区域を示しています。また、洪水調整施設の整備状況をふまえた計画規模の降雨による浸水想定区域と、想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域の2種類の図があります。なお、支川のはん濫や、内水および高潮によるはん濫等は考慮されていません。

長峡川・小波瀬川		今 川	
計画規模降雨	長峡川流域の9時間の総雨量219mm	計画規模降雨	今川流域の24時間の総雨量315mm
想定最大規模降雨	長峡川流域の9時間の総雨量729mm	想定最大規模降雨	今川流域の24時間の総雨量958mm

実施機関:福岡県河川管理課(平成30年4月)

### 高潮マップ 高潮浸水想定区域について

高潮浸水想定区域は、日本に接近した台風のうち既往最大の規模を基本とするだけでなく、台風経路についても豊前豊後沿岸で高潮偏差が最大となり、施設では防ぐことができないような想定し得る最悪の事態を前提として作成されています。

#### 想定台風

- 中心気圧:900hpa 【参考】既往最大台風▶ 室戸台風911hpa
- 最大旋衡風速半径:75km(伊勢湾台風を想定)
- 時速:73km(伊勢湾台風を想定)
- 進路:北西進型
- その他 河川流量を考慮(9時間の総雨量219mm)

実施機関:福岡県港湾課(令和元年12月)

## 浸水深について

この防災情報マップに示す内水・洪水・高潮による浸水深は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。(津波による浸水深については、46ページをご覧ください)

